

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成22年1月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1572400156
法人名	医療法人 越南会
事業所名	グループホーム 越南
所在地	南魚沼市五日町2322番地 (電話) 025-776-3623
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 9月 28日

【情報提供票より】( 21年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 9人、非常勤 人、常勤換算 8.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 ~ 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 350 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 0 円	
	または1日あたり		円

### (4) 利用者の概要 ( 21年 9月現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.4 歳	最低 74 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	五日町病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、母体病院である病院、老人保健施設等が建つ敷地の一角に位置している。国道沿いでもあり、交通や買い物の便が良い。  
南魚沼市、魚沼市は認知症サポートキャラバンのモデル指定地域となっており、市の担当者の協力を得ながら、当ホームも地域への認知症に関する情報等の発信役、推進役を担っている。隣接する母体病院、老人保健施設との連携体制もあり、医療やリハビリ、栄養面でのサポートを全面に受けながら運営できる体制が整っている。また、職員の離職減少への取り組みとして、介護労働者雇用管理責任者を設置したり、全職員が3か月の試用期間の後に正規職員として採用されるシステムにするなど、組織として工夫している。ホームの管理者、職員ともに生き生きと笑顔を絶やさず、利用者の気持ちをくみ取りながら、より良い暮らしに向けて支援している様子がうかがえた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念の共有と日々の取り組み」については、年度末に年間の反省を行い、利用者のニーズ等踏まえながら、年間目標を理念として掲げることにした。「職員を育てる取り組み」では、内部研修も年間計画を立てて行うようにした。また、職員が希望する研修等も随時行うようにした。「居心地良く過ごせる居室の配慮」は、その人らしく過ごせる空間をさらに検討し、作品や使い慣れた物等を増やし、居心地良い空間作りを利用者と一緒に行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員会議で話し合い、管理者が取りまとめている。職員は自己評価を、グループホームで大事にしていくことを見直す機会、日頃のケアを見直す機会として活用している。また、外部評価の結果についても運営推進会議や職員会議等で検討し、改善に向け取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>法人内の他のグループホームと小規模多機能居宅介護事業所と合同で、2か月に1回開催されている。話し合いのう会議メンバーには利用者は参加していないが、他の参加者により、サービス内容や評価への取り組み、運営に関する相談や行事等の情報など活発に意見交換が行われている。地域包括支援センターの職員も参加しており、市との関係を深めながらサービス向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>遠方に住んでいる家族が多いことから、毎月職員が交替で利用者の暮らしぶりを伝える手紙を書き、写真も添えて送付している。家族の状況や希望等に合わせながら、適宜健康状態等の報告や相談も行っている。苦情・相談受付については、重要事項説明書に内部・外部の窓口を明示し、契約時に説明している。運営推進会議でのアドバイスを受け、第三者委員も設置して意見をくみ上げるよう努めている。家族と関わる際には、意見や相談をしやすい雰囲気づくりを心がけ、得られた意見等は運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>家族や地域に向けて年4回広報誌を発行しており、理念を掲載したり、写真入りで活動状況を報告して、具体的な実践内容を知ってもらうよう努めている。また、小・中学生の訪問を受け入れたり、近隣の保育所や小学校の行事に利用者と一緒に参加する等の交流を行っている。買い物や外食、行事、日常の外出等を通して、近隣の方との交流を深めており、今後より一層地域との馴染みの関係づくりを深めていきたいと考えている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です)

←  取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、毎年度ごとに事業所で取り組むべき重点目標を定め、事業所の理念として掲げている。重点目標は、毎年度末に管理者から提示し、会議で具体的な取り組み方などを話し合っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年度ごとに設定する事業所の理念について、年度末に会議で話し合い、実現に向けて取り組んでいる。しかし、理念とは別に、ホーム内には開設当初から「個性と習慣を大切にします」という言葉が掲示されており、職員の多くはこれを理念として認識している。		管理者・計画作成担当者と職員との間で、理念として捉えているものに違いが見られる。管理者と職員が理念を共有し、同じ認識のもとで実現に向けて取り組んでいけるよう、理念の統一を図ることが望まれる。
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族や地域に年4回発行している広報誌に理念を記載し、また、写真付きの活動報告等で具体的な実践内容を知ってもらうよう努めている。利用者との外出や来訪時等にも、実践を通して理念が家族や地域に浸透するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学生の訪問を受け入れたり、近隣の保育所や小学校の行事に利用者と一緒に参加する等の交流を行っている。また、買い物や外食、行事、日常の外出等を通して、近隣の方との交流を深めている。事業所では、今後一層地域との馴染みの関係づくりを深めていきたいと強い意欲を持っている。		地域との交流をより一層深めていきたいとの職員の意欲を、職員会議や運営推進会議等で取り上げ、立地条件や地域性に合った取り組みをさらに進めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で話し合い、管理者が取りまとめている。職員は自己評価を、グループホームで大事にしていくことを見直す機会、日頃のケアを見直す機会として活用している。また、外部評価の結果についても運営推進会議や職員会議等で検討し、改善に向け取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこの意見をサービス向上に活かしている	法人内の他のグループホームと小規模多機能居宅介護事業所と合同で、2か月に1回開催されている。話し合いのうえ会議メンバーには利用者は参加していないが、他の参加者により、サービス内容や評価への取り組み、運営に関する相談や行事等の情報など活発に意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは顔なじみの関係ができています。南魚沼市が認知症モデル指定地域となっていることでさらに密な繋がりができ、運営に関すること等も気軽に相談等行っている。管理者だけでなく職員も市主催の連絡会等に参加し、関係を築きながらサービスの質の向上に努めている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会や法人内の研修会に参加しており、参加できなかった職員には伝達講習や資料を通して周知徹底を行っている。マニュアルも整備されており、業務の中で注意喚起し合い、また、新聞記事等を会議で取り上げて意識を高めるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方に住んでいる家族が多いことから、毎月職員が交替で利用者の暮らしぶりを伝える手紙を書き、写真も添えて送付している。出納帳、領収書、運営推進会議議事録や職員の異動の報告等も併せて送付している。また、家族の状況や希望等に合わせながら、適宜健康状態等の報告や相談も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情、相談対応窓口を内部、外部ともに明示し、契約時に説明している。また、運営推進会議でのアドバイスを受けて第三者委員を設置し、家族が意見等を出しやすいよう工夫している。家族と関わる際には、要望や相談等しやすい雰囲気づくりを心掛け、寄せられた内容は運営に反映させている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	計画作成担当者が日常的に職員の意見を吸い上げ、必要に応じて管理者、運営者に提案、報告、相談等している。計画作成担当者は、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めており、職員も提案等がしやすい環境と認識している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべくホームの職員の入れ替わりがないように法人内でも配慮している。また、離職を減らす取り組みとして、全ての職員を正規雇用している。新しい職員が入る場合は現任職員がマンツーマンで指導し、利用者へダメージを軽減するよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人で統一されたマニュアルの他に、必要に応じてホーム独自のマニュアルが整備されている。マニュアルはいつでも閲覧可能な場所に置かれ、特に重要なものは掲示したり、フローチャートにして見やすく工夫している。年に1度、計画作成担当者がホーム独自のマニュアルを見直しており、変更時は会議で報告・配布し職員に周知している。		年に1度マニュアルの見直しをしているが、更新日時の記入がないため分かりにくい。見直しの都度、記入していただく。また、計画作成担当者だけが見直しに関わるのではなく、他の職員も関わることで一層マニュアルに対して理解が深まるのではないかとと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、新人研修や感染症等の研修会、事例検討会があり、参加している。ホーム内でも2か月に1回程度、よりホームでの業務に合った研修会が行われるほか、毎朝のミーティングなどでも新聞記事等を取り上げて話し合い、職員の意欲や知識・技術の向上に努めている。市内で行われる外部研修にも参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼地域でグループホームの連絡会が年5回開催されており、職員が参加して意見交換、情報収集等を行っている。参加した職員が連絡会の内容や気づきを他の職員等に伝えて共有し、質の向上に向けて取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員の希望をなるべく考慮に入れた勤務にしたり、日頃から相談しやすい関係づくりをし、職員のストレス軽減に努めている。また、管理者が介護労働者雇用管理責任者となり、精神面での相談等にも応じている。		職員の休憩場所等が決まっておらず、ゆっくりと十分な休憩を取りにくい状況がある。運営者、管理者、職員とで話し合いの場を持ちながら、十分な休憩が確保できる体制を作っていくことを期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が安心、納得して入居できるよう、事前に1度は本人と家族に、本人が難しければ家族だけでもホームを訪れてもらい、雰囲気等を見てもらっている。入居直後は、本人の意向や状態等を十分に把握しながら、家族と小まめに連絡を取り、本人・家族の不安軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりが日々の生活の中で主体的に発言、行動できるように配慮しながら関わりをもっている。料理の味付けを教えてもらったり、地域の昔から大切にしていた風習等を教わったりと、利用者から学ぶ場面も大切にし、感動を共有して共に暮らす関係づくりをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや本人へ向かうよう、面会や電話の際には、本人の良いエピソードを伝えるよう心掛けている。家族の負担も考慮した上で適宜、外出や外泊等を依頼するなど、一緒に本人を支援していく関係づくりをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時やケアプランの更新時に、本人や家族から意向等の聴取を行っている。また、本人の日頃の言動から言葉にならない思いもくみ取るよう心掛けている。情報の収集や共有にはセンター方式アセスメントシートを活用しており、計画作成担当者が職員から聞き取って作成している。		センター方式シートを職員も書き込める機会を取り入れると、より情報量が増え、共有意識も増すのではないかと。職員が参加できる体制へと工夫を期待したい。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、本人や家族、利用していた施設等から情報を収集し、把握している。入居後も、面会時やケアプラン更新時を利用して情報収集を重ね、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人や家族、職員から情報収集してアセスメントを行い、ニーズ把握を行っている。カンファレンスには、必要に応じて母体施設の作業療法士や理学療法士、栄養士等も参加し、チームとして連携しながら本人本位の介護計画を作成するよう努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の評価、見直しを行い、本人の状態に応じて期間終了前でも計画の変更を行っている。変更の際には、十分に関係者と話し合いを行うよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する母体病院と医療連携体制を取り、医療面でのサポート受けている。この病院をかかりつけ医とした場合には、状況に応じていつでもホームで医療を受けられる体制がある。利用者の希望に応じて、理美容院や自宅、買い物等の外出の付き添いも行っている。母体病院以外の場合は有料となるが、通院の付添も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医を確認し、希望に応じた対応を行っている。隣接する母体病院の協力を得て、状況に応じては24時間ホームで医療を受けられる体制も取られている。利用者が年1回の健康診断を適切に受けられるよう、かかりつけ医との調整も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして看取りは行わない方針であり、家族等にも十分説明し、状況に応じて適切な施設等への入所支援も行うことを入居の段階から伝えている。また、状態が変化する都度、家族等関係者との話し合いを行い、本人・家族の不安を軽減するよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけ等は、誇りやプライドを傷付けないよう配慮し、自然にさりげなく行われている。個人の記録は保管する棚を決め、施錠している。広報紙に写真を掲載する場合は、家族から同意書を得た上で掲載している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者との日々の会話や表情などのサインから本人の希望を読み取るよう努め、それに応じて生活を送れるよう支援している。起床等の時間は概ね決まっているが、その日の過ごし方は、本人の希望に応じて臨機応変に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは前日に利用者の希望を取り入れながら作成し、食材の買い物にも毎日出かけ、楽しみながら食事づくりを行っている。買い物への同行や調理の手伝い等は、一人ひとりの気持ちや力に合わせて、利用者自身のペースややり方を大切にして行えるよう支援している。箸や茶碗、マグカップ等は個別に用意して使ってもらっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在の利用者は概ね排泄が自立しており、特に排泄チェックが必要ない状況であるが、本人に適切な支援ができるよう、さりげなく傾向を把握して職員間で共有している。いつもと違う時には声をかけるなど、排泄の失敗がないよう状況に合わせて支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の身体状況や希望する時間、介助する職員の性別等に応じて入浴を支援している。基本的には全利用者が週6日入浴をしていたが、現在、業務都合により一時的に1日おきの入浴となっている。入浴日が分かりやすいよう、居間にその日入浴する方について掲示している。		業務の都合で一時的にはあるが、入浴日が指定されている。一人ひとりの希望やタイミングに可能な限り応じられるよう工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの思いや力を踏まえて、活動用具の用意や置き場所、誘い方などを工夫している。掃除や洗濯、料理の味付け等、一人ひとりが活躍できる場面を意識して設けている。		農業をされていた利用者が多いので、作物を育て、収穫し、皆で食べるという活動ができる環境があると、よりその人らしさが出てくるのではないだろうか。より一層、一人ひとりに合わせた楽しみごと等の支援に期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの力や希望に応じて、買い物やドライブ、希望の場所への外出を行っている。毎朝散歩へ行かれる方もおり、職員は時々様子を見るなど、利用者自身の力を大切にした支援を行っている。また、月1回程度は利用者全員で外食やドライブに出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが整備され、周知徹底されている。法人内では定期的に身体拘束についての研修会が行われており、参加している。外部研修にも参加し、全職員に情報を伝達している。身体的なものだけでなく、行動制限や言葉での拘束も含め、日頃から職員間で注意し合っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止、防犯のため、玄関の戸が開くと優しい音になるようにし、日中は施錠していない。職員は利用者の傾向を把握し、外へ出られた時には本人の気持ちに合わせて一緒に付き添う等の対応を行っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・ひやりはと記録には、起こった原因を記録する箇所があり、直近のミーティングで事故の検証をし、直接的及び間接的な原因を話し合いながら、改善策を検討している。事故が発生した場所や時間、該当利用者等の年間のデータを集計し、再発防止に活かしている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行なっている	年に1回職員は救急蘇生法、AED、誤嚥時対応の講習会に参加している。対応マニュアルは、とっさの時にも見やすいよう掲示されている。母体病院との医療連携体制を取っており、些細なことでも看護師に連絡し指示を仰げるようになってきているが、緊急時に対する職員の不安は大きい。		持病を抱える利用者については、実際に起こりうる場面をシミュレーションするなどして対応の練習を積むことにより、職員としてもより一層の備えができるのではないだろうか。職員の不安が軽減されるよう、さらなる工夫を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	法人内で災害対策のマニュアルが整備され、職員にも周知されている。また、ホームでは年2回、利用者も参加して消防訓練を行っており、必要時には消防署の協力も得ている。中越地震の経験を活かし、備蓄品も用意している。平成21年度は、スプリンクラーを設置し、地域消防団との連絡網も整備していく予定である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事等摂取量を毎食ごとにチェックし、栄養管理に活かしている。年2回は法人内の栄養士より栄養指導をしてもらっており、メニューへのアドバイスだけでなく、調理方法の工夫や、利用者一人ひとりの活動量から個々に合った量やバランスについてアドバイスしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者の作品や写真等が掲示され、活動の道具等も利用者が手に取りやすい形で置かれている。対面式のキッチンからは時間毎に調理の音やにおいを感じられ、また、ベランダには鉢植えの花等が育てられており、生活感、季節感がよく感じられる。清潔が保たれ、不快なおい等もない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、チェスト等の家具がそれぞれ備え付けられている。利用者の好みや性格等に合わせて、作った作品を飾ったり、掃除用具が置かれていたり、それぞれの居心地の良い空間作りがなされている。		